

平成29年度 病害虫防除技術情報 第3号

平成29年6月30日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

ピーマンうどんこ病の防除対策について

ピーマンうどんこ病は、多発生すると葉が落葉し、草勢や収量の低下を招く。他品目のうどんこ病と異なり内部寄生する菌のため、防除が難しい病害であり、25℃前後で感染が拡大しやすい。

本年は、6月中下旬の巡回調査で発生面積・発生量ともに過去10年間の同時期と比較して最も多く、今後も感染が拡大すると考えられる。そのため、速やかな防除に努めることが重要である。

1. 6月下旬の巡回調査結果

(1) 発生圃場率

本年：22.2% 平年：5.0% 過去10年の最高値（H27）：16.7%

(2) 発病度

本年：1.7 平年：0.1 過去10年の最高値（H23）：0.4

2. 防除上注意すべき事項

- (1) 発病すると防除が困難になるので、予防散布に重点をおく。
- (2) 早期発見に努め、発病初期のうちに治療効果の高い薬剤を中心に、散布間隔を短くするなどして集中的に散布する。
- (3) 空気が流れが停滞し、乾燥した状態で発生しやすいので、施設内では換気を図るとともに過乾燥を避ける。

使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。
(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>)

